

会議の名称	第2回茅野市総合計画審議会		
開催日時	令和元年11月11日(月) 18時30分～20時00分		
開催場所	茅野市役所 8階 大ホール		
公開・非公開の別	公開	非公開	傍聴者の数 2人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
	<p>○議事</p> <p>1 開会</p> <p>2 委嘱書交付</p> <p>3 会長挨拶</p> <p>4 協議事項</p> <p>(1) 第1回審議会以降の質疑に対する回答について <b>資料5</b></p> <p>(2) 答申案の作成について <b>資料6</b></p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p> <p>○議事録</p> <p>1 開会</p> <p>2 委嘱書交付</p> <p>3 会長挨拶</p> <p>前回全体把握のために詳細な説明を行った。今回はさらに議論を深めてほしい。</p> <p>各分野では、それぞれ進行管理を行っているため、この審議会では総合計画の基本構想に絞って進行管理をお願いしたい。</p> <p>4 協議事項</p> <p>(1) 第1回審議会以降の質疑に対する回答について <b>資料5</b></p> <p>・・・資料5及び資料5別添資料に基づき説明・・・</p> <p>会長 事務局より質疑等に対する回答があったが、特に質疑はあるか。 ＝質疑なし＝</p> <p>(2) 答申案の作成について <b>資料6</b></p> <p>事務局 ・・・資料6に基づきこれまでの答申内容について説明・・・</p> <p>会長 事務局より説明があったが、基本構想全体に関する事項を大項目で示したうえで、各分野の意見は個別意見として付記したい。このような様式でまとめていく事でよいか ＝意見なし＝</p> <p>第5次総合計画基本構想の策定にあたっての答申では、付記事項として</p>		

	<p>いくつかの視点から意見を付した。 今回の検討もこの視点に沿って議論いただきたい。</p> <p>まず一つ目として、人口減少や少子高齢化に対する意見はあるか。</p>
委員	<p>子育て世代は周辺自治体から茅野市へ転入している。そのため周辺自治体より人口減少は緩やかであると認識している。 その要因は行政施策よりも、単に地価が安価であるからだと思っている。もっと行政から不動産業界へのサポートや、住宅建築者への補助があってもよいのではないか。</p>
委員	<p>こどもが育つ時に、楽しい体験をたくさんすれば、一旦外の地域へ行っても戻ってくれるのではないかと、この思いでどんぐりプランを進めている。ただし、現実的には戻ってこないこどもも多い。 どんぐりプランは茅野市にいる子供が対象であるが、現在茅野市にいない子育て世代に向けた施策も大切だと思う。 その意味では、茅野市の子育て支援や居場所づくり、例えば地区こども館、CHUKO らんどチノチノ、0123広場やこども読書活動は、他の市町村と比較しても充実しており、子育て世代へのPRを行うことで、茅野市へ来てもらうことができるのではないかと。 また、移住世帯が区自治会との関係をうまく構築することが重要であり、移住者が区自治会とうまく結びつくよう、行政もサポートしてはどうか。</p>
委員	<p>教員住宅を改装して移住体験住宅にした事例があったが、実際にそこに住み、自然や子育て環境の体験により、移住につながった事例もある。教員住宅は空いている部屋もあり、この活用方法は移住と子育て世代を応援する良い取組と思われる。 保育園の統廃合は、財政面から必要なことであるが、小さな地域であってもその地域で子育てをしてくことも大事にしてほしい。それが住み続けたい地域とか、地域で子育てをする魅力につながると思う。</p>
委員	<p>子育て世代としては、住宅建築などの補助制度を望む。この世代は市の財政などの情報は少なく、子育てへの補助の施策を望んでいる。未満児保育無償化などの対応を茅野市の魅力としてはどうか。 就職時の雇用条件は、都会の方がよく、若者はそこを見ている。</p>
委員	<p>工業の業界は、全般的に人手不足である。他の産業も同じだと認識している。企業誘致により人の動きができる面もあるが、技術者の引き抜き等による地域内の人的不足が出る面もある。 若い世代に来てもらうためには、子供を産み育てる環境を整備することが重要である。</p>
委員	<p>テレワーク環境が整いつつあるが、仕事をする上では、人と人が会う中で理解できることや、進むこともあり、テレワークでは難しい部分も感じている。茅野市の環境の中では、フィジカルな魅力も大事だと思っている。 情報化を考えたときには、便利さの追求や都会への対抗心にとらわれないうちがよい。</p>

委員	<p>経済的な動きも下降傾向である。それは人口の減少が要因であり、いかに増やすかが、キーである。</p> <p>企業であれば経営理念にあった仕事をするのが重要であり、総合計画も10年間の理念として「八ヶ岳の自然、人、技、歴史が織りなす やさしさと活力あるまち」が掲げられている。市民一人ひとりと共有する中で、理念にあった仕事をしているかどうかを確認していくべきである。</p>
委員	<p>人口減少は、予測可能な傾向であり、茅野市も確実に人が減る。高齢者の増加はある程度でピークを迎えるが、こどもの減少が続き、元気な高齢者が増えていく。こどもの減少は、逆にそこに特化した政策を打つことが可能になるだろう。こどもと高齢者の施策を市の中でどのように位置づけるかが重要である。</p> <p>全国的には都市化と過疎化が進むので、その傾向もとらえる必要がある。一方で大学生付近の世代を見ると、県内の18歳は2万人おり、約半数が進学する。県内の大学定員は5千人のため、多くが他県へ出ていく。</p> <p>県内で18歳人口が増えているのは松本市だけであり、大学の定員が多い市である。</p> <p>なお、公立諏訪東京理科大学では、学生が諏訪地域に定着・就職するための地域連携を進めている。</p>
会長	<p>次の視点として、地域福祉や環境などパートナーシップのまちづくりで進めてきた分野の意見はあるか。</p>
委員	<p>地域福祉計画に関わっている。これまでのパートナーシップのまちづくりが地域福祉にとって貴重なスタンスであると感じている。まだ活かされていない面もあるかもしれない。</p> <p>こどもが元気で健やかに育つまち、高齢の方が自分の足で歩けるまちを基本として、自分たちが主体となってまちづくりを進めていくことで活気が生まれるとよいと思う。</p> <p>病院として区へ出向くと、どこも少子高齢化に対する危機感を持っている。それに対する対策を前向きに、希望をもって検討している人も多くいると感じている。</p> <p>若い人の意見を聞くと、区の役員を敬遠する声や、金銭的負担を懸念する声も聞かれる。病院職員も茅野市の在住の希望もあるが、どの区にするかとか負担を調べているような動きもある。最終的には暖かく迎えて仲良くしていこうとする、人と人の関係が必要である。</p> <p>若い世代は考え方もライフサイクルも違うので、ほかの世代がその考えでまちを創るのではなく、若い方の考えを取り入れる必要がある。</p>
委員	<p>ある程度の年になると有料老人ホームや高齢者賃貸住宅に入っている人が多い。他地域から来て最後の地として来ている人もいるが、統計的にもなかなか現れない。増加が予想されるので、声を反映してほしい。</p> <p>女性の就業先は、製造業に次いで医療福祉が多かった。現在介護職等含めてスタッフの不足により、受け入れができない施設もある。若い女性を含めて雇用とのマッチングを進める施策があるとよいと思う。</p> <p>少子高齢化の大きな要素は晩婚化と未婚化にあると思われる。結婚や子育て世代の経済・居住支援の施策が必要ではないか。</p>

委員	<p>茅野市は環境の先進的な取組が多く、市民アンケートにも結果が出ている。</p> <p>自然環境からみると、近年の災害等既存の対策では対応できない状況が増えている。市内でも河川氾濫の危険があった。先を見通した整備が必要である。</p>
会長	<p>3番目の視点として、行政と市民の関わりについて付記しており、それぞれの立場での取組が必要である。</p> <p>公立諏訪東京理科大学における先進技術開発のように民間企業との協働でベクトルを合わせるような視点も必要と思われるが、これについて意見を伺いたい。</p>
委員	<p>大学では、地域貢献を大きな取組に掲げている。諏訪地域全体の振興と地域連携を考えたい。</p>
委員	<p>市ともパートナーを組む中で、国や県の動向もあり、うまくいかない部分は感じている。</p> <p>例えば、ビッグデータの活用が進められているが、汎用性が低く活用できないものが多い。市独自では扱いが難しいものでも、6市町村のデータを集めると見えてくるものもあるので、大学の知見も入れながら分析し活用してはどうか。</p>
会長	<p>行政と民間の関わり方について、行政側の意見はあるか。</p>
事務局	<p>行政課題を解決するのに、行政のみでは難しい状況もある。まずは情報をきちんと共有することが大事であると思う。まちづくりを進めるにあたって、行政だけでなく、全体の問題として共有していく事が大切だと感じている。</p>
委員	<p>教育では、読み聞かせや読書活動が他の市町村よりも盛んに行っており、魅力になる。またスポーツ施設も充実しており、種目数や施設の充実も茅野市の魅力である。これらの魅力が、住みやすくまた、住み続けたい要因になると思う。</p> <p>視点2の中では豊かな自然環境が強みであると認識している。市のPRでは、簡単明瞭なフレーズを使うとよいと思う。また、子育てでは、10地区と別荘の居住者が一緒になってできるイベントや交流会があればまだまだ伸びていくと思う。</p>
委員	<p>今日配布された資料5（アンケート結果）を見て、若者がこのまちに魅力を感じてなく、住み続けたくないという傾向が一番の課題であると考えます。</p> <p>今回の議論の中でも市の発展について否定的な意見も出ているが、アンケートについても精度を高めるため、サンプル数を多くして将来の茅野市を背負って立つ人たちの意見を集約し、それに対してどう対処していくのか、抽象論・形式論ではなく、具体論・実体論で検討していく必要があると考えている。</p> <p>若者は買い物不便、良い就職先がない、街に活気がないと感じている。若者が住みたくなるようなまちづくりを真剣に話し合っていくべきである。</p>

	<p>と思う。</p>
委員	<p>農業も継承者がおらず、田畑を手放す希望がある。若い女性からも「農業があるから結婚がいやだ」との声を聞く。地元では役員が嫌で退区していく現状もあり、地域のコミュニティも変化していかなければいけない状況である。</p>
委員	<p>20代の女性が少ない要因として、公立諏訪東京理科大学の理系一学部化の影響もあるのではないかと。</p> <p>幼少期から学童期の子育ては、これまでの施策の中でよい環境を作っているが、高校卒業後の環境が足りない。実質的に魅力のある学ぶ場所や働く場所が必要である。子育て世代が暮らしやすくするためには金銭的な施策だけでなく、夢が持てる環境やまちづくりも必要である。</p> <p>来年度は縄文ライフフェスティバルが予定されており、その中で楽しい場所を創ることや、茅野への愛着心の醸成、茅野市のプロモーションにも寄与するとの目的で進めている。</p> <p>茅野市は一つのプロジェクトや団体を作るのはとても上手であるが、それが関連市民団体以外の市民への浸透が足りていない。企画段階からの関わりを増やしていく必要があると思う。</p>
委員	<p>公共交通対策は、大学生が移動手段がないことや、高齢者の免許返納が進まない理由としても挙がっており、困っている事例に対して、対応がスピーディに進んでいない。</p> <p>10地区あり広い面積であるが、買い物や地域医療を含む日々の暮らしを10地区で完結できるような姿も考えられるのでは。</p>
副会長	<p>分野別の意見なども興味深く聞かせていただいた。</p> <p>各分野では、それぞれ進捗管理をしており、この審議会は、全体を俯瞰して進捗状況を見ていかなければいけない。市全体として何が一番重要か、答申には何を重要事項として掲げていくかをまとめていければと思っている。今後の審議の中でまとめていくためにも、全体を俯瞰するイメージを持っていただきたい。</p>
事務局	<p>5 その他</p> <p>第3回の審議会は12月3日（火）を予定している。</p>
副会長	<p>6 閉会</p> <p>貴重なご意見をありがとうございました。</p>

以上